

第24回全国スカウトフォーラム

新しい100年に向けて スカウトは何をすべきか



目次

1	開催概要	1
2	代表スカウト名簿	2
3	スタッフ名簿	4
4	事前準備	5
	4.1 準備の流れ	5
	4.2 下見	5
5	フォーラム事前集会	6
	5.1 事前集会タイムスケジュール	6
	5.2 事前集会プログラム	7
	5.2.1 開会式	7
	5.2.2 フォーラムオリエンテーション	7
	5.2.3 基調講演	8
	5.2.4 グループワーク	8
	5.2.5 閉会式	9
6	フォーラム	10
	6.1 タイムスケジュール	10
	6.2 プログラム	11
	6.2.1 集合受付	11
	6.2.2 オリエンテーション	11
	6.2.3 開会式	12
	6.2.4 アイスブレイク	13
	6.2.5 ワークショップ1、2	13
	6.2.6 交流会1、2	14
	6.2.7 モーニングゲーム1、2	14
	6.2.8 朝礼1、2	15
	6.2.9 県フォーラム代表者発表	15
	6.2.10 分科会1~4	16

6.2.11	世界スカウトフォーラム・アフターフォーラムについて	18
6.2.12	宣言の案出し・作成	19
6.2.13	全体会	20
6.2.14	閉会式	21
6.2.15	フォーラムでの生活について	22
7	フォーラム宣言	23
7.1	宣言文	23
7.2	ベンチャー隊指導者・地区・県連盟担当者の皆様へ	23
8	SNS分析	24
8.1	本フォーラムにおけるSNSの活用	24
8.2	SNSの効果評価	24
9	運営委員長所感	25
10	講評	25
11	付録	26
11.1	運営体制・運営方法の反省	27
11.1.1	最終日の反省会より	27
11.1.2	基調講演者の選定	27
11.1.3	オンラインを活用した対面フォーラムの運営	28
11.1.4	フォーラムでのスカウトへの基本動作等の指導について	28
11.2	参加者の声	29

1 開催概要

<開催趣旨>

スカウト運動の原点である「スカウトたちの声に耳を傾け、その意見をスカウト運動に反映させていくこと」を実践し、「青少年の意思決定への参画」をより推進していくことを願い、隔年で全国スカウトフォーラムを開催しています。

スカウト個々が自己の成長をはかり、幅広い社会性を身につけ、相互の理解を深めるための貴重な機会とし、フォーラムでの討議が広く共有されるよう、参加スカウトの気運を高め、各県連盟へフィードバックができることを目指します。

全国のスカウトの取り組みから未来につながる提言や行動につながるよう、日本連盟創立100年の年にその一步を踏み出すべく、本フォーラムを開催します。



1. 行事名 第24回全国スカウトフォーラム
2. 開催日 フォーラム事前集会：2022年12月17日(土)
フォーラム：2022年12月24日(土)～26日(月) 2泊3日間
3. 会場 フォーラム事前集会：オンライン
フォーラム：**川崎市青少年の家**
〒216-0033 神奈川県川崎市宮前区宮崎105-1
本施設は、団体の宿泊研修を通じて社会性を身につけ、情操を豊かにし、心身ともに健康な青少年の育成を図ることを目的とする社会教育施設です。青少年や学校、指導者などの研修活動だけでなく、一般団体の文化活動などにも開放されています。
4. テーマ 「新しい100年に向けてスカウトは何をすべきか」
5. 参加対象 都道府県連盟の代表ベンチャースカウト各1人 計47人
6. 参加費 15,000円



2 代表スカウト名簿

県名	団	氏名	グループ	備考
北海道	千歳第1団	のざわ ほなみ 野澤 星南美	1	
青森	むつ第2団	くぼた れん 久保田 蓮	4	
岩手	盛岡第5団	ちば ゆうた 千葉 悠太	6	
宮城	仙台第2団	ふだ ののこ 布田 乃々子	2	
秋田	秋田第33団	しらいわ さくら 白岩 さくら	3	
山形	寒河江第1団	くまがい なつき 熊谷 夏輝	5	
福島	須賀川第1団	とがわ こうた 外川 洸太	3	
茨城	土浦第3団	おの えいき 小野 栄樹	2	事前集会欠席
栃木	宇都宮第18団	うえの だいそう 上野 臺 創	5	
群馬	館林第1団	なかむら まさつぐ 中村 昌嗣	2	当日欠席
埼玉	さいたま第212団	ホアン クアンニヤット	6	
千葉	千葉第18団	ふじかわ あゆ 藤川 亜由	4	
神奈川	川崎第43団	だいどう さくらこ 大洞 桜子	5	
山梨	甲府第10団	ほさか うじょう 保坂 宇成祐	1	事前集会欠席
東京	墨田第3団	いまいきりと 今井 祁李斗	3	
新潟	小千谷第1団	よこた あすむ 横田 明日夢	5	
富山	富山第10団	いずみ ゆうた 泉 雄太	2	当日欠席
石川	金沢第17団	はたけ みのる 畠 実	1	事前集会欠席
福井	福井第7団	しまだ しんご 島田 真牙	1	
長野	飯田第1団	じんどう えりな 神藤 愛理菜	3	
岐阜	各務原第2団	せんじゅう たまよ 千住 珠世	2	
静岡	富士宮第25団	さの ゆういち 佐野 雄一	6	
愛知	名古屋第30団	いしかわ はるき 石川 晴己	5	

三重	伊勢第7団	はやし せいいちろう 林 青一郎	4	
滋賀	大津第12団	よこやま れん 横山 廉	1	
京都	宇治第5団	たぐち ひろと 田口 大翔	2	
兵庫	西宮第13団	だんの けいた 檀野 恵太	3	
奈良	生駒第4団	おおがき あまね 大垣 海音	4	
和歌山	和歌山第18団	しまもと れい 島本 嶺	5	
大阪	大阪第85団	やまもと さえ 山本 彩恵	6	
鳥取	倉吉第3団	もり やくと 森 躍翔	6	
島根	松江第1団	あべ いつき 安部 惟右	3	
岡山	都窪第2団	やぎ しこう 八木 史考	4	
広島	広島第2団	みよし やひろ 三好 弥尋	5	
山口	光第2団	くぼ あゆみ 久保 歩未	3	
徳島	徳島第7団	わたなべ なみる 渡邊 奈海瑠	1	
香川	観音寺第5団	おおにし ゆうた 大西 悠太	2	
愛媛	新居浜第2団	じんの ゆうき 神野 裕輝	6	
高知	高知第8団	くろせ しょうぞう 黒瀬 象三	4	当日欠席
福岡	北九州第3団	さとう ほのか 佐藤 穂果	5	
佐賀	鹿島第1団	こばやし りょうすけ 小林 椋祐	2	
長崎	島原第1団	みやざき ひより 宮崎 日和	4	
熊本	長洲第1団	かたやま とうま 片山 道天	3	
大分	大分第2団	はしもと さくらこ 橋本 桜子	6	当日欠席
宮崎				
鹿児島	阿久根第1団	はやし けんた 林 建太	1	
沖縄				

3 スタッフ名簿

<運営委員会>

県名	団	氏名	役務
東京	八王子第12団	あらたきょうへい 荒田 恭平	運営委員長
東京	練馬第6団	いとかわめぐる 糸川 愛留	プログラム
東京	立川第10団	よこうちりょうたろう 横内 涼太郎	生活・安全
宮城	仙台第1団	あらいさいこ 新井 彩子	ファシリテーター (グループ1)
埼玉	坂戸第1団	いしいしゅう 石井 柊	ファシリテーター (グループ2)
山形	寒河江第1団	おおぬまたまき 大沼 環	ファシリテーター (グループ2、オンライン参加)
千葉	我孫子第1団	とうぎたかのり 東儀 隆範	ファシリテーター (グループ3)
京都	京都第42団	なりたまさや 成田 真也	ファシリテーター (グループ4)
岐阜	岐阜第8団	ごとうまみ 後藤 真実	ファシリテーター (グループ5)
東京	練馬第8団	おがわたくと 小川 拓人	ファシリテーター (グループ6)

<基調講演・ワークショップ講師>

横浜市 政策局 共創推進課担当	せきぐち よしゆき 関口 昌幸
-----------------	--------------------

<世界スカウトユースフォーラム紹介 講演者>

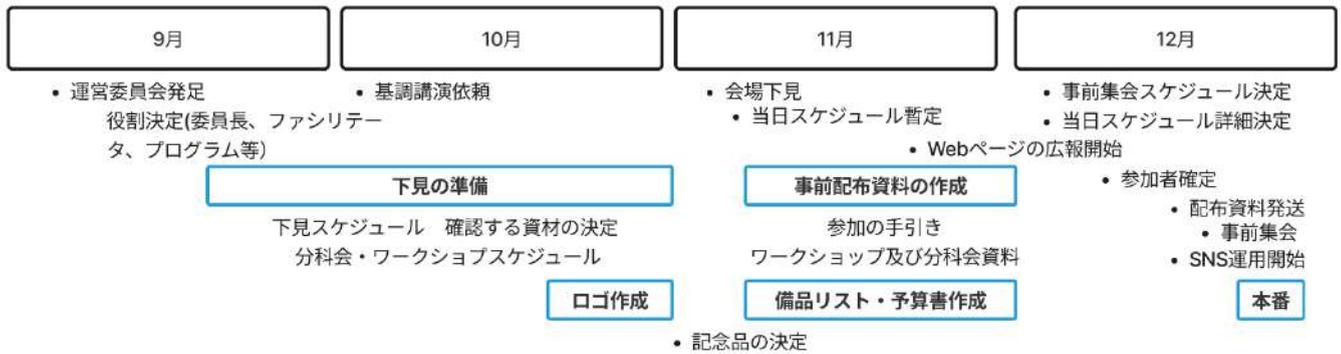
14WSYF派遣員 山形県連盟	たけだ あおい 武田 蒼
14WSYF派遣員 愛知連盟	こいけ さくら 小池 さくら
14WSYF派遣員 島根連盟	きたむらりさ 北村 梨沙

<日本連盟>

プログラムコミッショナー プログラム委員会 委員長	かわせ まさみ 川瀬 政美
プログラム委員会 委員	きむら なおと 木村 直登
プログラム委員会 委員	はやし てるあき 早矢仕 晃章
プログラム委員会 委員	まつだ みか 松田 美歌

4 事前準備

4.1 準備の流れ



※青枠で囲んでいない項目については時点を中央点で示した。

4.2 下見

内容

11月5日(土)、6日(日)にスタッフによる会場下見と打ち合わせを行った。各担当ごとに下見で確認する事項を事前に取りまとめ、施設の担当者の案内のもと下見し、フォーラム当日に使用予定の各部屋の様子や備品などを確認した。

評価・反省

事前に施設での確認事項を取りまとめたため、下見当日に確認すべきことが全て確認できた。一方、オンラインでの打ち合わせに対して対面での打ち合わせを行うことで、検討すべき内容が多く発見され、下見時に検討すべきことの中で検討が不十分に終わってしまったものがあったと同時

に、フォーラム当日までに検討すべきことを再認識した。

改善案

全国から運営委員が集まる集会のため、対面での打ち合わせの機会が限られてしまうことは避けられない。このような状況で十分に準備を行うためには運営委員一人ひとりが何をすべきか考え、当日までにまとめる必要がある。今回の下見では、対面による充実した打ち合わせが実現したが、対面の機会以外でも委員それぞれが担当として検討するべき事項を予め考えることにより、さらに充実した機会となりえたのではと考える。

5 フォーラム事前集会

概要

開催日時： 2022年12月17日（土） 17:00～19:30

実施方法： オンライン (Zoom)

今回のフォーラムでは前回に引き続き、当日を迎える前に一度代表スカウト全員が顔を合わせる機会を設けることにした。その目的は2点あり、1点目は、2泊3日という時間をより効率的に使うために、一早く代表スカウトたちの緊張をほぐし良好な関係を築くこと。2点目は、フォーラムとはどのようなもので、どのように進んで行くのかといったフォーラムに関する前提知識とそのビジョンを代表スカウトに得てもらうことであった。これらの目的のもと事前集会を実施したところ、フォーラム当日の集合時から会話や笑い声が至る所から聞こえ、またワークショップや分科会での議論も深くかつ円滑に行うことができていた。これらは、事前集会を行ったことによる成果が目に見えて表れていた瞬間であった。今後もより有意義なフォーラムを生み出すためにも、今回行ったような事前集会は可能な限り行う方が良いと考える。

5.1 事前集会タイムスケジュール

予定時間	内容	備考
16:40	受付開始	参加者の表示名変更アナウンス
17:00	開会式	
17:15	フォーラムオリエンテーション	荒田運営委員長より説明
17:30	基調講演 前半	基調講演講師の関口氏の進行
18:00	基調講演 後半	
18:25	休憩	
18:30	グループワーク	グループごとにブレイクアウトセッションに分かれて実施
19:15	閉会式	
19:30	解散 (グループワーク) ※1	(ブレイクアウトセッションに再集合)

※1 グループワークが終わらなかったグループのみ

5.2 事前集会プログラム

5.2.1 開会式

内容

項目	内容
集合	映像やマイク、表示名等の諸注意、服装点検の指示
開式	司会が開式の言葉を述べ開式
国旗儀礼	指示は川瀬プログラム委員長
連盟歌斉唱	「連盟歌」
運営委員長挨拶	荒田運営委員長の挨拶
閉式	

評価・反省

開会式は予定通りの時間で進んだ。画面共有や

スポットライトの切り替えなども含めて全て運営委員で担当した。事前に運営委員で本番同様のリハーサルを行い、Zoomの操作を確認したのでスムーズに進行できたと考える。

改善案

Zoom会議と並行して別のビデオ会議（Slackのハドルミーティング）を開き、そこで運営側のコミュニケーションをとった。一部Zoom会議に運営側の音声が入ってしまう場面があったため、オンライン開催では運営側はスピーカー使用を控える方が良いと考える。

5.2.2 フォーラムオリエンテーション

内容

フォーラムに参加するにあたって必要な基礎知識を解説した。はじめに、本来のフォーラムの定義やスカウトフォーラムの流れ、主な目的を説明し、全国スカウトフォーラムの位置づけの理解を図った。

次に、円滑で建設的な議論が行えるよう、議論の進め方を説明した。議論を行う上で大切なグラウンドルールの共有も同時に行い、秩序あるフォーラムの実施を促した。

最後に、参加者の不安点を解消するため、質疑応答を行った。

評価・反省

フォーラムについての解説は、概ね順調に進んだ。しかし、質疑応答ではフォーラムに関する質

問がされなかった。原因としては緊張も考えられるが、事前の情報のインプットや質問が出るような雰囲気作りなど、当日に向けた課題も見えた。フォーラム運営委員会として、準備段階で参加者の予備知識や心構えをより深く想定することも必要と考える。

改善案

全国でスカウトフォーラムについての考え方や知識は一貫していないことから、運営委員会から公式に「スカウトフォーラムについて」の資料を事前に配布し、参加時には共通の認識を持っている状態にすることが効果的であると考えている。また、今回はフォーラム事前集会にてオリエンテーションを行ったが、当日に再度内容を復習する機会があると建設的な議論がより早い段階からできるようになると感じた。

5.2.3 基調講演

内容

神奈川県横浜市で、地域とのまちづくりを主として担当されている関口 昌幸氏に基調講演を依頼し、横浜市の現状、横浜市が抱えている問題について「高齢化・単身化社会」、「気候変動などによる災害の頻発」、「従来の教育システム・終身雇用の崩壊」など具体例を紹介していただいた。

評価・反省

当日のZoomへの入室トラブルが発生し、時間が空く事態となった。時間が空いてしまった場合のことを想定していなかったため、少し空白の時間

が生まれてしまった。しかし、臨機応変に対応し、フォーラムオリエンテーションの質疑応答の時間を伸ばすことで時間の調整をすることができた。

改善案

準備段階でスケジュール通りに進めることに注視しすぎたことから、スケジュール通りにいかなかった場合の想定ができていなかった。オンラインならではのトラブルや、進行上で人の入退室が想定される場合など、準備段階からあらゆることを予測した対応の検討が必要と考える。

5.2.4 グループワーク

内容

グループワークでは、事前に各自作成した「県連盟フォーラム情報シート（自己紹介シート）」を見せながら、自己紹介と各県連盟で開催した県連盟フォーラムの採択事項やその採択に至った経緯等の発表を行った。

評価・反省

自己紹介シートの活用を想定していたが、時間の都合で口頭での自己紹介になるグループもあった。また、自己紹介シートや県連盟フォーラム発

表資料がない人がいたが臨機応変に口頭で発表してもらった。オンラインながら対面同様のクオリティの会ができたと感じた。

改善案

時間に余裕を持つ事や事前に分かっていたら内容や時間を前後させる工夫が必要だった。自己紹介シートや県連盟フォーラム発表資料の作成が間に合っていないないスカウトが多く、数回の通知の必要性を感じた。



5.2.5 閉会式

内容

項目	内容
集合	服装点検の指示
開式	司会が開式の言葉を述べ開式
運営委員長挨拶	事前集会の総括
国旗儀礼	指示は川瀬プログラム委員長
当日までの案内	フォーラム当日の集合時間、持ち物や配付資料について説明
写真撮影	スカウトの集合写真の撮影
閉式	司会が閉式の言葉を延べ閉式 グループワーク未完了のグループを除いて参加者は順次、Zoom会議から退出

評価・反省

閉会式は予定より5分遅らせて開式した。グループワークと並行してSlackでコミュニケーションを取り、開式時間を調整した。その結果、大幅に遅れることはなく柔軟な対応ができた。運営委員側が意思疎通を取れるよう、参加者とは隔離された環境を確保しておくことが有効であると考えます。

「当日までの案内」では、スライド1枚に簡単にまとめて説明したが、事前課題への言及が欠けていた。

改善案

「当日までの案内」での説明が不十分であったためかフォーラム当日時点で事前課題が未完了のスカウトが多かった。説明に欠けている部分がないか確認することは勿論のこと、閉会式での説明だけでなく当日の持ち物や準備物については事前集会の後、改めてスカウトには、文書の配付など細やかな対応が必要であると考えます。



6 フォーラム

6.1 タイムスケジュール

12月24日 (土)		12月25日 (日)		12月26日 (月)		
-06:00-		-06:00-		-06:00-		
30-		30-	起床・洗面・清掃	30-	起床・洗面・清掃	
-07:00-		-07:00-		-07:00-		
30-		30-	朝食	30-	朝食	
-08:00-		-08:00-	モーニングゲーム	-08:00-	宿泊室点検準備・点検	
30-		30-	朝礼	30-	モーニングゲーム・朝礼	
-09:00-		-09:00-	県フォーラム代表者発表 ワールド・カフェ	-09:00-	全体会	
30-		30-	分科会 1			
-10:00-		-10:00-	分科会 2	-10:00-		
30-		30-		-10:00-		
-11:00-		-11:00-		-11:00-	閉会式	
30-		30-	昼食	30-	解散	
-12:00-		-12:00-		-12:00-		
30-		30-		30-		
-13:00-	集合・受付	-13:00-	分科会 3	-13:00-		
30-	オリエンテーション/部屋移動	30-		30-		
-14:00-	開会式	-14:00-	分科会 4 議長団の選出	-14:00-		
30-	アイスプレイング	30-			30-	
-15:00-	ワークショップ①	-15:00-			-15:00-	
30-		30-			30-	
-16:00-		-16:00-	振り返り	-16:00-		
30-		30-		30-		
-17:00-	夕食	-17:00-	夕食	-17:00-		
30-		30-		30-		
-18:00-	ワークショップ②	-18:00-	世界フォーラム・ アフターフォーラムについて 宣言案の案出し・作成	-18:00-		
30-		30-	交流会	30-		
-19:00-	入浴・就寝準備	-19:00-		-19:00-		
30-		30-		30-		
-20:00-		-20:00-	入浴・就寝準備 自由時間	-20:00-		
30-	交流会	30-		30-		
-21:00-	消灯	-21:00-	消灯	-21:00-		
30-		30-		30-		
-22:00-		-22:00-		-22:00-		

	プレイホール
	研修室1・2 / 特別活動室
	食堂
	その他

6.2 プログラム

6.2.1 集合受付

内容

プレイホールにて参加スカウトの受付を行った。受付の際は、運営委員2人と日本連盟事務局職員1人で健康調査書と行動記録の確認、参加費の徴収を行い、資料と名札を配付した。受付後はプレイホールに荷物を置き、グループごとに自己紹介などを行った。

評価・反省

受付開始は13時の予定だったが、13時より早く複数のスカウトが到着したため、前倒しして12時45分より受付を開始した。大雪の影響で一部交通機

関の乱れがあったが、多くのスカウトが時間内に受付を終えた。

健康調査書を忘れたスカウトが数人いたが、事前にデータでの提出を求めていたため健康状態を把握できないスカウトはいなかった。

改善案

全国から参加者が集まる集会では、特に遠方の参加者が受付開始時間より前に到着することがある。今回は予定より15分受付開始を早めたが、早く到着したスカウトの対応をあらかじめ想定しておく必要がある。

6.2.2 オリエンテーション

内容

施設の担当者と、運営委員によるオリエンテーションを行った。施設担当者からは利用上の注意事項が説明され、運営委員からは期間中の生活ルールの説明を行った。その後スカウトが各宿泊部屋へ荷物を移動した。

評価・反省

今回は、施設の担当者から参加者に直接オリエンテーションを行う決まりであったため、あらかじめ施設の担当者とオリエンテーションの時間を

共有し、説明をお願いする必要があった。また、その後の開会式からワークショップまで部屋に戻らないスケジュールであったため、スカウトにその後のセッションに必要な筆記用具などを持参して再集合となった。

改善案

伝えるべき内容を簡潔にわかりやすく説明することが重要であった。また、事前に説明する内容をまとめ、その後の行動を含めて想定する必要がある。



6.2.3 開会式

内容

項目	内容
集合	グループごとにU字型で集合
開式	司会が開式の言葉を述べ開式
国旗儀礼	国旗に正対し、村田禎章総コミッショナー(オンライン参加、以下 村田総コミッショナー)の発声に合わせて「礼」
連盟歌斉唱	指揮に合わせて斉唱
主催者挨拶	村田総コミッショナーのご挨拶
運営委員長挨拶	荒田運営委員長の挨拶
スタッフ紹介	運営委員、日本連盟プログラム委員の順に荒田運営委員長より紹介した
閉式	司会が閉式の言葉を述べ閉式 当番班についての説明と任命

評価・反省

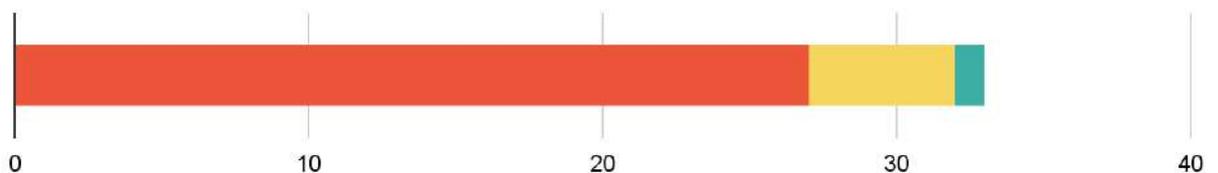
開式予定時間ちょうどに開式することができ、また式中では村田総コミッショナーよりオンラインでのご挨拶をいただいたが、音声・機材、その他大きなトラブルなく予定していた時間内に閉式

することができた。これは入念な事前準備と本番を想定し、実際にオンラインを繋げて行ったりハーサルが生んだ結果であると考え。その一方で機材等を先に配置してしまったことにより、我々が想定していたよりも参加スカウト全員を集合させるスペースが狭くなってしまい、結果かなりスカウト同士の間隔を詰めての集合となってしまった。

改善案

開会式に限らず、各スペースを確保していく際の順番として、動かしにくいものから先に行うことを徹底するべきだと感じた。今回で言えば41人の参加スカウトが動かしにくいものであり、機材等が動かしやすいものに当たる。また今回我々は下見の際、部屋の広さや借用品についての確認は行ったが、実際にそれらを配置した時の想定は不足していた。次回以降は各スペースの取り方も下見時の確認事項に含めるべきだと考える。集合させるスペースについては、スカウト同士が休めの姿勢をとっても当たらない程度を想定するとよい。

■ 大変満足できた
 ■ 少し満足できた
 ■ なんとも言えない
 ■ 少し満足できなかった
 ■ 満足できなかった



グラフ:「開会式・生活オリエンテーション」の満足度に関するアンケート

6.2.4 アイスブレイク

内容

グループに分かれ、2つのアイスブレイクを行った。1つ目、妄想自己紹介は、「たった1度だけ、100年後の世界を見れるとしたらあなたは何を見るか」をテーマに、この回答に加えまだグループメンバーに話していない自分の情報を3つ共有してもらった。2つ目の共通点探しでは、グループメンバー内の共通点を見つけることに挑戦し、最も多く探せたグループには景品を贈呈した。

評価・反省

予定していた時間内に納めることができた。また、特に妄想自己紹介ではスカウトそれぞれのキャラクターを表すような回答が多くあり、その後の議論が円滑に行うための関係を築くことができた。一方で楽しい気分のまま次のプログラムに移ってしまったことから、気持ちの切り替えがうまくいっていなかったように感じた。

改善案

アイスブレイクの終わり方を工夫し、メリハリをしっかりとつけることが必要であった。

6.2.5 ワークショップ1、2

内容

事前集会で基調講演をお願いした関口氏をお迎えしてワークショップを行った。参加者には、事前集会で紹介していただいた横浜市が抱える問題を踏まえて、各地域課題の原因と解決策について考えてきてもらった。ワークショップ1では、それらを元にグループで共有を行い、全体に発表の時間を設け、関口氏からフィードバックをいただいた。ワークショップ2では事前集会で紹介していただいた問題について、実際に関口氏がどのようなことを行ったのか紹介していただいた。

クではファシリテーターが討議のサポートをしており、スカウト主体で円滑に進めることができていた。ワークショップ2の講演では、高校生には馴染みのない言葉が多く内容が難しかった、講演のスライド資料が欲しいなどの声があった。2日目の分科会の中でファシリテーターから補足を行うことで対応した。

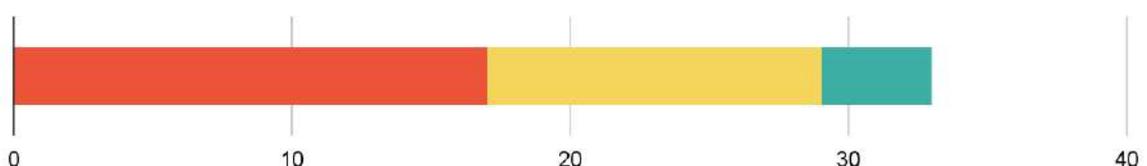
改善案

フォーラム当日までに各グループのファシリテーターから個人課題についてのリマインドが必要であった。また、基調講演で使うスライドの資料について用語の補足などと合わせてスカウト側に共有があると良かった。

評価・反省

ワークショップ1を始める段階で個人課題を終わらせられていないスカウトがいた。グループワー

■ 大変満足できた ■ 少し満足できた ■ なんとも言えない ■ 少し満足できなかった ■ 満足できなかった



グラフ:「ワークショップ」の満足度に関するアンケート

6.2.6 交流会 1、2

内容

交流会1では「かたるた」という副詞や接続詞が書かれたカードを用いて「最近深く考えたこと」についての共有を行った。交流会2では、ゲームマスターが鳴らす拍手の回数に応じた人数で集まりテーマについて語り合ったり、持参したスカウトグッズや地元のお土産の交換会を行った。

評価・反省

交流会1、2どちらもとても盛り上がり、雰囲気としてはとてもよかった。特に交流会2で行ったスカウトグッズや地元のお土産の交換会は、スカウトによって持っているものが多種多様で面白く、グループ以外のスカウトとも会話できる機会となり、有意義なプログラムであった。一方で「かたるた」はそのルールやこちらから提示した

テーマの内容が難しく、スカウトを悩ませる結果となった。

改善案

交流会では極力頭を使うゲームは避け、簡単に考えられて気軽に行えるそんな内容のプログラムを行うと良い。また、誰でも知っているようなゲームは行わず、交流会でさえも新たな知識を得る場所にできるとなるとお有意義になると考える。



6.2.7 モーニングゲーム 1、2

内容

声に出さずにお題に沿った順番に並ぶ「サイレント並び替えゲーム」と、アイスブレイクでよく行われる「言うこと一緒、やること一緒ゲーム」で約3日間で培われたグループ内の阿吽の呼吸を試しあった。優秀グループへの表彰も行った。

評価・反省

モーニングゲーム1で行った「サイレント並び替えゲーム」は、我々の予定よりも早く進んだ場合の想定が足りておらず、考えていたお題を出し切った結果、その場で考えることになってしまった。また、「サイレント」がキーワードとしたことから、ゲームの説明から景品の贈呈までも全て紙に書いたものを見せるなど、そのゲームの特性に応じて運営するべきであった。

改善案

「起こり得る事柄を予測してそれに備える」こと。今回で言えばお題の予備をいくつか用意しておくべきだった。また、「徹底してその空間を作り出す」こと。これによってスカウトたちの身の入り方も一段と増し、集中力が高められ、よりモーニングゲームにふさわしいものになると考える。



6.2.8 朝礼 1、2

内容

当番班の中で集合・解散、司会、ソングの担当に分かれ、参加の手引きに記載された進行表をもとに朝礼を行った。項目は集合、開式、国旗儀礼、ソング、朝の言葉、閉式である。

評価・反省

今回のフォーラムでは期間中に当番班を設け、その役目の1つが朝礼の進行であった。参加スカウトに進行を任せるとは、各々に役割を与え責任

感を感じてもらうために行ったことであったが、当然のことながらスカウトによってやり方や認識が違い、戸惑う場面が多くあった。これは我々の配慮不足であったと感じている。

改善案

朝礼を行う前の段階で、一度集合のかけ方や指揮の仕方を確認し、フォーラム期間中は動作を統一するなど、スムーズに進行を行えるようにすることが必要であった。

6.2.9 県連盟フォーラム代表者発表

内容

事前集会で決定した各グループの代表スカウトが机に残り、その他のスカウトが他グループの代表の発表を聞いて回る、ワールドカフェの形式で行った。スライドを提示しながら、各県連盟でのフォーラム内容や、フォーラムを受けて取り組んだプロジェクトについて発表を行った。7分間の発表と3分間の移動を5セット行い、最後の1セットで代表になったスカウトに他グループの代表スカウトの発表の共有を行った。

評価・反省

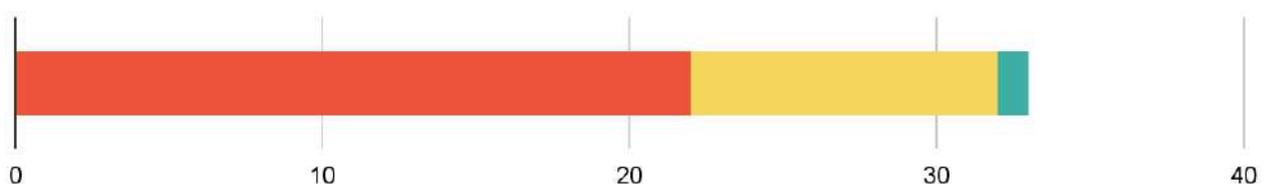
各代表の発表は短い時間ではあったが、事前集会で決定した代表だったため、事前集会から当日までの間に発表内容やスライドを精練させてきた

スカウトもいて、中身の詰まった発表であった。しかし、7分間の発表と3分間の移動を5セット行うという時間配分は提示したものの、明確なタイムテーブルを提示していなかったため、時間が押す場面が見られた。また、代表スカウトに他グループの発表を共有する時間が10分しか取れず、5グループ分の代表発表の共有を行うには時間が短く、十分に共有を行うことが難しかった。

改善案

予めタイムテーブルを作成して参加スカウトに提示しておくことで、代表スカウトもその他のスカウトも時間を意識しながら発表を行うことができたのではないかと感じた。

■ 大変満足できた ■ 少し満足できた ■ なんとも言えない ■ 少し満足できなかった ■ 満足できなかった



グラフ:「県フォーラム代表者発表」の満足度に関するアンケート

6.2.10 分科会 1～4

分科会 1～3

内容

分科会1～3では、目的を達成するには、企画から報告までの各プロセスを、どのように実施するのがよいか、議論し共有することを目的とした。分科会1では「企画・計画」、分科会2では「実行」、分科会3では「報告・評価」のプログラムプロセスの段階に応じて、今までスカウトが悩んだことや、行き詰ったこと、うまくいかなかったこと、困ったことを共有し、その困難をどのようにして乗り越え、プログラム実現・成功に導けばいいのか、考えを深める場とした。

評価・反省

分科会1-3について、それぞれのファシリテーターがスカウトたちに何を得て欲しいのか、目的を見据えて取り組むことができた。事前集会、ワークショップから繋がりを持って分科会を運営

でき、議長団まで選出できていた点も良い点として挙げられる。しかしながら、最終的に「班ごとによる理解の差」が生まれてしまった。その要因として、ファシリテーションの進行の仕方をそれぞれのファシリテーターの力量に委ねていたことが挙げられる。「何のために、何を行うのか」という本質を文面で理解することは難しいため、過去の資料を参考にしつつ、私たちが目指す目的、目標達成のためにどのような内容にしていくべきなのか早くから熟考していくことが必要だったと考える。

改善案

目的だけでなく、どのように達成していくのかいくつか考えておくことで、当日、なるべく柔軟な対応が必要にならないような準備をしていくことが大切だ。



分科会4

内容

2つのグループが統合し、計3つのグループがそれぞれフォーラム宣言案を作成した。実施方法は各グループのファシリテーターに委ねられ、ブレインストーミング形式や、分科会1~3までの各グループの議論をもとにした要素分析などによって宣言案を作成する形式となった。また、このセクションではグループ1~6から各1人ずつ議長団を選出した。

結果として3つの宣言案が生まれ、6人の議長団メンバーがこれを議長団会議に持ち込む形となった。

評価・反省

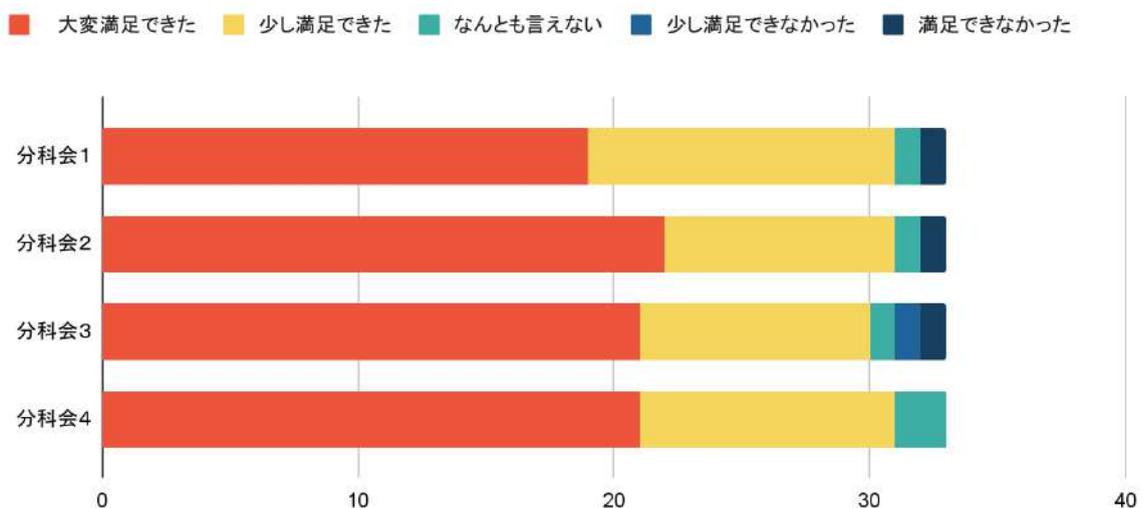
評価すべき点は、「言語化し合える状況」と「想いの順位づけ」が十全に生まれたことである。各スカウトがフォーラム参加前から感じていたことや、期間中に感じたことを言語化し合える

状況を生めていたほか、分科会1~3の議論を踏襲して、各グループが大切にしたい価値に目を向け、想いに優先順位もつけられていた。この「言語化し合える状況」と「想いの順位づけ」が、県連盟レベルの思惑をだんだんと全国レベルの思惑へと進化させていったように思う。

反省すべき点は、目的達成のための平等な機会の提供が十分ではなかったことである。今回このセクションの展開方法は、各ファシリテーターに委ねられていた。そのため、グループによって異なる形式で目的の達成を目指す形となった。

改善案

議論の濃度に差が生まれにくいような方法を検討する必要がある。議論の実施方法をファシリテーター全体で共有し合うことで、全員が同じ議論の土俵に立てる環境を用意し、所属するグループによって質が変わるようなことが極力減ることが望ましい。



グラフ:「分科会」の満足度に関するアンケート

6.2.11 世界スカウトユースフォーラム・アフターフォーラムについて

内容

世界スカウトユースフォーラムに参加したローバースカウトとオンラインで中継を結びスライドを用いながら発表を行った。また、会場で発表を聞いているスカウトたちのコメントをslidoというリアルタイムで質疑応答ができるプラットフォームを用いて質問を募集していた。

アフターフォーラムの説明会では、スカウトフォーラムがどのような流れに沿って行われているのかについてと、アフターフォーラムとはどのような場にしていくべきなのか、仲間にはどのようなことを伝えていって欲しいのかについて説明を行った。

評価・反省

ローバー年代の活動や国際イベントに興味をもってもらうという意味では反応は概ね良かった。さまざまな地域課題をもとに採択文を作成してそれを自分たちの地域で実践可能な形に最適化するという意味では規模が違えど本質は変わらないと、伝えることができた。またZoomを介したオペレーションなどもセッション前の打ち合わせでしっかりと確認できたのは良かった。

パワーポイントを活用することでわかりやすく

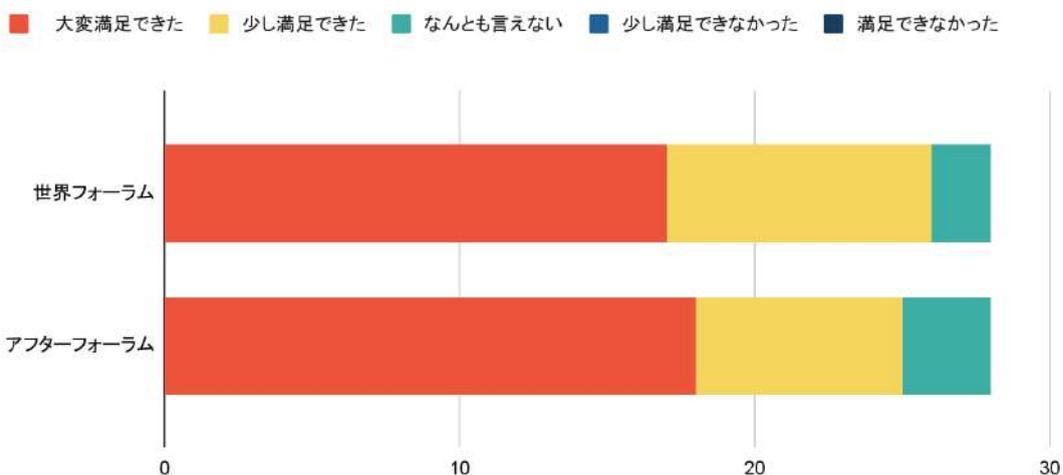
説明することができた。また、アンケート結果においても「アフターフォーラムについて理解できた」「アフターフォーラムに向けて不安が和らいだ」等プラスな意見が多く見受けられ、有意義な時間となったと思う。さらに、前々回第22回の全国スカウトユースフォーラム参加者の実体験に基づいて具体例を出すことでよりアフターフォーラムについて想像しやすくなったと思う。

しかし一方で、分科会1~4を終えたスカウトたちにとっては単純に話を聞くのみの場となってしまっていた。疲れている中で、より多くのことを吸収するには、改善する余地があった。

改善案

予めQ&Aなどの補足資料などを準備してセッションの最後で共有すると良かった。

アフターフォーラムの説明は運営スタッフ側からスカウトたちに向けて話すのみの、一方通行になりやすい。その中で飽きさせない、興味の持てる内容であるべきだと考えられる。そのために、わかりやすいパワーポイントや言い回しだけでなく、スカウトから意見を聞くタイミングを設けるなどをして、工夫していくことが大切であると思った。



グラフ:「世界フォーラム・アフターフォーラム」の満足度に関するアンケート

6.2.12 宣言の案出し・作成

内容

各グループから選出された代表者6人によって構成される議長団のミーティングを行った。分科会4にて作成した「フォーラム宣言原案」を持ちより、一つの「フォーラム宣言素案」を作成した。分科会4にて2グループ合同で原案を作成したため、3つの原案からの素案作成となった。模造紙に3つの原案を書き出し、原案同士の共通点を探していく中で、参加スカウトの気づきや考えをまとめた素案を作成した。また、全体会での役割分担や場の配置の確認を行い、全体会への見通しをもったり共通理解を行ったりした。

評価・反省

各グループから選出されたばかりで、あまり接点のないスカウト同士ではあったが、始めから対話も多く、活気のある雰囲気宣言素案の作成を行うことができていた。

共通点を探していく作業で、始めは「共通点が見つからない」と手が止まってしまうこともあ

たが、「同じ言葉ではないが類似表現の共通点だ」ということに気づくことができ、視野を広くもちそれぞれの原案を繋げて素案を作成していた。しかし、予定の時間内ではまとめきれず、時間を超過してしまったことは課題であった。

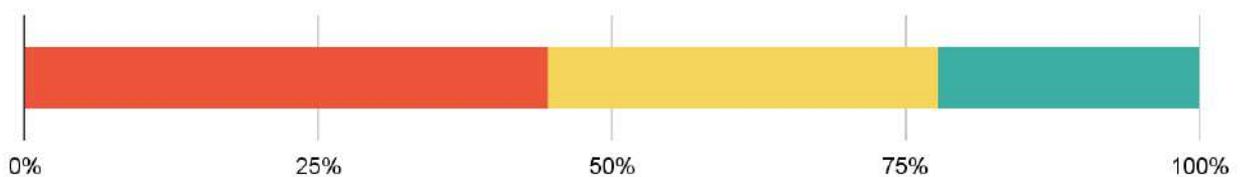
改善案

休憩を挟まずの素案作成だったため、途中煮詰まってしまう場面が見られた。適宜休憩を挟むべきであった。また、時間を意識できるようにタイムキーパーを設定してもよかったと感じる。

選出された議長団

グループ	県名	氏名	備考
1	北海道	のざわ ほなみ 野澤 星南美	
2	京都	たぐちひろと 田口 大翔	
3	兵庫	だんのけいた 檀野 恵太	
4	千葉	ふじかわあゆ 藤川 亜由	議長
5	山形	くまがいなつき 熊谷 夏輝	書記
6	大阪	やまもと さえ 山本 彩恵	副議長

■ 大変満足できた
 ■ 少し満足できた
 ■ なんとも言えない
 ■ 少し満足できなかった
 ■ 満足できなかった



グラフ:「宣言案の案出し・作成」の満足度に関するアンケート



6.2.13 全体会

内容

議長の藤川スカウトから全体に向けて議長団会議で決定した宣言文を発表し、この宣言文に至った経緯を説明した。その後全体からの質疑応答の時間を設けた。宣言文の内容についての質問が多くあった。最後に決議をとり採択文を決定した。

評価・反省

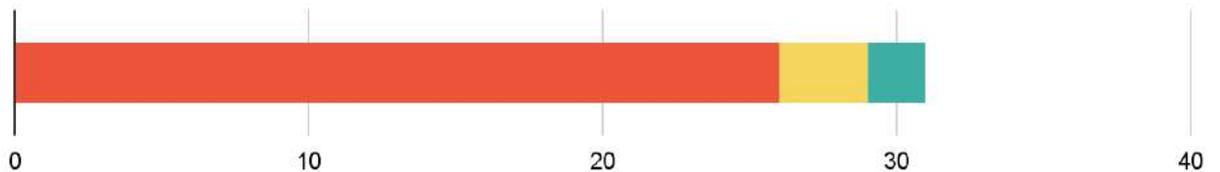
例年の全体会とは少し違い、宣言文の内容を理解することから始まった。分科会で各グループの進捗状況に差が生じていたため、予想外の流れにスカウトに戸惑いがあったように感じられた。一方で、議長が質疑応答に手間取った時は議長団の

スカウトがサポートしており主体的に参加できていた。加えて各グループにファシリテーターが入り、内容理解の時間を設けたことによりスカウトの理解度を高めることができた。宣言文の内容理解に時間がかかってしまい、予定していた時間を超えてしまったが、全会一致で採択文が可決されたのでよかったと言える。

改善案

タイムキーパーを設けていなかったが、タイムキーパーを設けることで時間への意識が高まったと思われるので、今後はスカウトにタイムキーパーを任せるべきだと感じた。

■ 大変満足できた ■ 少し満足できた ■ なんとも言えない ■ 少し満足できなかった ■ 満足できなかった



グラフ:「全体会」の満足度に関するアンケート



6.2.14 閉会式

内容

項目	内容
集合	グループごとにU字型で集合
開式	司会が開式の言葉を述べ開式
フォーラム宣言 発表	議長団で議長を務めた千葉県連盟藤川 亜由スカウトが、全体会において決定したフォーラム宣言を発表した
主催者講評	川瀬政美プログラムコミッショナー/プログラム委員長(以下、川瀬プログラムコミッショナー)の講評
運営委員長総括	荒田運営委員長の総括
国旗儀礼	国旗に正対し、川瀬プログラム委員長の発声に合わせて「礼」
閉式	司会が閉式の言葉を述べ閉式 引き続き修了証授与に移った
修了証授与	各グループ担当ファシリテーターから全参加スカウトへ修了証授与
記念ビデオ上映	フォーラム3日間の写真や動画をまとめた記念ビデオをプレイホールのスクリーンで上映

評価・反省

全体会が延びたため、20分遅れでの開式となったが臨機応変に対応でき、また余裕を持った時間配分をしていたことから、時間内に閉式することができた。修了証授与では参加スカウト全員の前で一人ひとりが担当ファシリテーターより受け取っていく形を取ったことから、スカウトたちに良い緊張感を与えることができた。最後に上映を行った記念ビデオは、3日間で撮影された写真や動画、またサプライズで撮影した担当ファシリテーターへ感謝の言葉を伝える動画を用いて2日目の夜に作成し、上映終了時には涙を見せるスカウトもあり、とても良い時間を作り出すことができた。

改善案

改善案ではないがひとつの案として、今回作成し上映したような記念ビデオないし、それに代わる何か3日間やってきたことや思い出を可視化できるツールがあると、参加スカウトたちの熱もより一層増し、全国スカウトフォーラムを締め括るものとしてとても良いと感じた。



6.2.15 フォーラムでの生活について

内容

フォーラム期間中は常にタイムスケジュールの5分前の集合を呼びかけた。また、施設のルールだけでなく、運営委員会にて設定した生活ルールを参加の手引きに記載しオリエンテーション時にも共有した。今回のフォーラムではこれまではなかった消毒や換気などに気を配る必要があった。

評価・反省

期間を通して体調を崩す参加者はいなかった。

予定時刻の5分前の集合を呼びかけたことで、予定時刻より遅れてスケジュールが進行することはなかった。また、5分前の集合にスカウトが全員集合できていた。

消毒や換気に関しては、各グループの机などの消毒を求めたが、部屋の換気や共有備品の消毒などは、1日目に具体的には呼びかけなかった。その

ため、グループごとの使用備品の消毒は行われたが、共有備品の消毒などは1日目は自発的に行われなかった。2日目に呼びかけたところ多くのスカウトが実践していた。

最終日の部屋点検は予定時間が短かったが、協力して時間内に終わることができた。

改善案

感染対策など健康に関することは全体に周知し全員で実践してもらうよう呼びかける必要があると考える。

今回は参加者がベンチャースカウトであったことや健康調査書から注意すべき健康状態の参加者が見受けられなかったため、期間中に参加者に確認することはしなかったが、フォーラム期間前の健康状態によっては確認する必要があると考えられる。



7 フォーラム宣言

7.1 宣言文

「時代とともに変化する課題」を解決するうえで、 活動の目的を明確化しよう

本フォーラムで代表スカウトたちは、テーマ「新しい100年に向けてスカウトは何をすべきか」に基づき、未来を見据えた地域課題の解決策や多様性、そして我々を取り巻く時代の変化について考えた。自分たちを取り巻く課題について理解を深めるためには、「なぜ？」と問い続けることで課題の本質的な原因を、そして自分たちがなぜやるのかという目的の明確化ができることに気が付き、それを言語化した。

7.2 ベンチャー隊指導者・地区・県連盟担当者の皆様へ

○アフターフォーラム実施内容のすすめ

各県連盟の代表スカウトは、アフターフォーラムでフォーラム宣言の意味と内容を、集まったスカウトに理解してもらうことを中心に行っていくことを期待する。その上で実際に自分たちの県ではどのような活動を行っていくのか、今までの活動はどうだったかを考えるアフターフォーラムにしていきたい。

○アクションプランへの転換方法のすすめ

宣言を理解したうえで、県連盟フォーラムで採択した内容は地域課題の本質を踏まえていたのかを見直し、既存のプロジェクトがあればそのプロジェクトは課題の本質を解決するものであったかを再度考え、これからプロジェクトを計画する場合は、改めて地域課題を解決するためのアクションプランをアフターフォーラムで話し合い、実行していただきたい。そして、このプロジェクトを行う意味は何なのかを問い続けることの大切さを各団に持ち帰って後輩に伝えて普段の活動にも今回のフォーラム宣言の思いを取り入れていただきたい。

○アクションプラン実行のすすめ

今回アフターフォーラムに参加したスカウトには、各県連盟（地区、隊、チーム）で計画したアクションプランを実行し、報告書をまとめたら各県連盟のVS担当コミッショナーに実施報告をしてもらいたい。今後、そのプロジェクトをスカウト仲間や後輩に共有してほしい。活動は1度やって終わりではなく、自分の経験を共有することで100%の価値を使いきれ。指導者の皆様には、そのように共有する場を積極的に設けていただき、頑張ったスカウトの熱を後輩育成に繋げていただきたい。

8 SNS分析

8.1 本フォーラムにおけるSNSの活用

本フォーラムでは全国スカウトフォーラムのFacebookページで発信した。参加者の保護者や全国のボーイスカウト関係者にフォーラムの様子を伝えることを目的に内容を構成し、運営委員長と当日オンラインにて待機していた運営委員が管理を行った。

全国スカウトフォーラムFacebookページURL：<https://www.facebook.com/sajsf>



8.2 SNSの効果評価

今回は日本連盟のスカウトフォーラムFacebookページで発信したが、目的によってはInstagram、Twitterの運用も効果的であると感じた。当日はなるべくタイムリーな投稿を心掛けていたが、現場で業務を行いながらの運用は人員不足や、時間の側面でも難しいと感じた。本格的にSNS運用を導入するのであれば、フォーラム運営とは別にSNS専用のチームを編成すると良い。

Facebookページの運用に関して、まずはページの周知率が低いので情報発信用途には向かないかもしれない。フォーラム期間の1か月で新規フォロワーは数人であったため、既存フォロワー（フォーラムに興味関心のあるユーザー）向けコンテンツの需要が高く、様子を伝えることが向いている。加えて、日本連盟公式アカウントに複数投稿をシェアしてもらった結果リーチ数は増加したが、エンゲージメントはあまり増えなかった。

以上からフォーラム個別のページ運用ではなく、発信内容や計画を立てたうえで日本連盟公式ページで発信する、フォーラム運営委員にSNS専用の役務を設けるなど、運用の方法と明確な目的を定める必要があると考える。

9 運営委員長所感

今回の全国スカウトフォーラムは、オンラインにてフォーラム事前集会（プレフォーラム）を実施したのち、神奈川県川崎市の青少年施設で開催しました。史上初のハイブリッド開催となり、フォーラム当日もイレギュラーはありましたが、運営委員がオンライン上でバックアップを行いました。運営委員会は2022年9月から約4か月間準備にあたり、さまざまな想定をしてきました。その準備のおかげで、当日のさまざまなイレギュラーにも柔軟に対応できました。「準備ぞ固き」まさにこの言葉に尽きるかと思います。

我々は過去の全国スカウトフォーラムに倣うこともあれば、今回初めて挑戦することもありました。運営委員のなかには、全国スカウトフォーラム参加者が複数人いましたが、「その時はその時、今回は今回」とうまく考えてくれたこと、未経験者は偏りのない見方をしてくれたことによってオリジナリティが生まれ、今回のフォーラムができ上がりました。「どんなフォーラムにしたいか」「どんなフォーラムにすると参加者は喜ぶか」を常に考えながらプログラムや分科会を計画した結果、参加者に満足してもらえたのだと思います。

しかしながら、反省点も多々あります。運営委員会では業務ごとに担当を置いていましたが、それがセクショナリズムを助長し担当が曖昧な業務が発生してしまい、「誰かがやっていると思っていた」ということが起きました。これは運営委員をまとめる私の管理不足です。是非、今後の運営委員会では業務を詳細までリスト化し担当を振り分けることを勧めます。

最後に、今回のフォーラム宣言について個人的な意見を述べさせていただきます。私は今回のフォーラム宣言をととても気に入っています。今回のフォーラム宣言は、今までの宣言とは異なり新しい形になりました。これまでは、アクションプランもしくはそれに近い形で、フォーラム参加者の思いを言語化してきたと思います。しかし、今回の宣言は抽象的で一見何を言いたいのか伝わりづらいかもかもしれません。しかし、私は、まさにこの宣言がこれからの100年をより良くしていくためにとても大切な考えだと思います。簡単に言うと「『物事の本質を』『常に』考えることが大切だ」と彼らは宣言しています。普段行っているゴミ拾いは何のためにやっているのか。そもそもなぜゴミが落ちているのか。「ゴミを拾うこと」が目的ではなく、「地域を綺麗にすること」が目的であるはずです。これが物事の本質であり、それを変わりゆく時代、環境で常に考え続けることはボーイスカウトのみならず、何事にも言えることだと思います。今回の宣言をこれだけで終わりにするのではなく、これからの全国スカウトフォーラムが率先して伝えてくれることを強く願います。

第24回全国スカウトフォーラム運営委員長
東京連盟八王子第12団 荒田 恭平

10 講評

参加したベンチャースカウトと運営委員の満足げな笑顔、その表情が物語るように今回のフォーラムは評価できると実感しました。4年ぶりの集合・対面での開催となった第24回全国スカウトフォーラムは、そのようなスカウトの満足感の中で終了することができました。

全国から集まったベンチャースカウトたちは、それまでの隊、地区、県連盟でのフォーラムを経て県連盟の代表であるという責任と意欲をもって取り組んでくれました。当初は不安な表情をしながらでしたが、時間を経ていくうちに仲間との対話を通し、よく聞き深く考える中で、どんどん自信が生まれてきているということが、各々の表情からもうかがうことができました。この年代で、いつも一緒に活動している仲間ではなく、地域や活動の様子が違っている新たな仲間との討議の中で、これまでとは別の発見・発想を知ることのほか、自分自身の感情や知識に触れながらそれぞれが思い思いの考えを巡らせ悩み、精神的に成長してくれたのだと感じました。

そのようなベンチャースカウトを支え、多くの時間を費やし、しっかりと準備をしてくれたのが運営委員のローバースカウトたちです。彼らも同じように、新しい仲間との共同作業の中で、それぞれの得意分野や専門知識を持ち寄り、お互いを尊重しあい高めあって、作業を進めてくれました。何よりも、彼らが大切にしていたのが、参加したベンチャースカウトが満足していく内容にすること。そして、本質的なことに気づいて各県連盟へと戻り、新たなアクションを始めてほしい、という思いがありそれらを分科会やスカウトへの語りかけの中で実現してくれました。各県連盟では早速、アフターフォーラムを実施し、アクションを始めているところもあると聞いております。まさに、運営委員の意図したことが実現しようとしています。

基調講演をしていただいた、横浜市の関口様においては、“地域”という身近な視点から将来に向けて、また世界的な視野でモノを見て、すさまじい速さで変化していく社会環境と社会課題解決に向けての投げかけは、参加したスカウトだけでなく、そのスカウトらから話を聞いてくれた日本全国のスカウト、指導者へも影響があったと感じております。まさに、これからの100年を考えるうえで、それぞれが新しい考え方に触れたお話でした。

これからは、参加したベンチャースカウトと運営委員のローバースカウトがどのように、さらに成長してくれるかが楽しみであり、これこそがより良き社会の実現に向けて、青少年が深く考え、広い視野を持ち、世界へ飛び出していく良い機会だと実感しております。

この事業に関わっていただきましたすべての皆様に感謝申し上げるとともに、引き続きスカウトたちを見守りたいと感じております。

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
プログラムコミッショナー 川瀬政美

11 付録

11.1 運営体制・運営方法の反省

11.1.1 最終日の反省会より

スカウト的な視点では交流会やアイスブレイクは分科会と比較して軽じてしまいがちだが、分科会の雰囲気醸成する側面もあり、交流会・アイスブレイクも含めて繋がりをもったセッション運営ができるとより良い。指導者的な視点で交流会・アイスブレイクの計画に臨むことが重要である。

次に、運営委員会の準備に関してだが、各人担当はあれど当日の運営には全員が関与することであるため、運営委員全員が当日の動きや各業務の内容を把握しておくことを勧めたい。こうしておくこと

で、当日運営委員に欠席が出た場合等、臨時で代役をする場合も問題なく対処できる。



11.1.2 基調講演者との調整

今回は例年と異なり基調講演をお願いする講演者の方との打ち合わせを我々運営委員で行った。運営委員が打ち合わせを行うことによって今回のフォーラムの趣旨やこちらが話していただきたい内容を明確にお伝えすることができ、とても有意義な基調講演を行うことができた。しかし、打ち合わせが直前になってしまい細かい内容の部分まで詰めることができなかった。

今回は早めの打ち合わせを行うことを勧める。また次回のフォーラムでは運営委員を編成した後、講演者の選考を行った方がいいのではという提案があった。最初から運営委員が行うことで基調講演とフォーラムの一体感がさらに強くなり、より良い基

調講演を行えることが期待できる。一方で例年より早い運営委員組織になるため準備期間が長期になる。長期間の準備期間による中だるみなどの懸念点があるので対策しながら準備を進めていくことを勧める。



11.1.3 オンラインを活用した対面フォーラムの運営

・準備からの当日までのオンラインでの参画方法

フォーラムの運営委員会の立ち上げ後からZoomなどを利用しミーティングを行い、それに合わせてSlack上で運営委員が参加する各担当部署のチャンネルを活用して情報共有や進捗確認などを行った。また、Google Driveを活用しタスクの可視化を行いつつ作業を進めることができた。しかしながら、この段階ではまだ割り振られている業務を自分事として捉えきれてない面があった。Slackに慣れていないこともあり、連絡手段は複数用意し各委員と密接に連絡を取りあえるようにするとリマインドの徹底を図れると思う。

・当日のオンラインでの参画について

今回のフォーラムはコロナ禍の対面行事ということもあり、オンラインで行ったプレフォーラムから本番までの間に代表スカウトの変更や欠席の連絡があり、運営委員の中でも当日現地参加が叶わなかった委員もいる。そのような状況下でもZoomやSlackを活用し現地の運営委員と密に情報共有を行いSNSへ投稿する写真の編集やZoomの配信サポートなど、現地業務のバックアップ要員として活動した。

11.1.4 フォーラムでのスカウトへの指導について

全国からさまざまな環境で活動しているスカウトが一箇所に集まるため、それぞれの団や隊でのローカルルールが混在していた。集合の仕方や基本動作、制服の記章類の付け方などは統一されていなかった。多くのスカウトは40人規模の行動を経験したことがなく、中には活動人数の影響でU字型で集合したことがないスカウトもいた。運営委員会はそのような背景を理解したうえでプログラムを計画する必要があるものの、次回以降は事前に代表スカウトの隊指導者に訓練をお願いすることや、運営側が求めるクオリティを予め提示しておくことで生活面でのグランドルールを設けることに繋げたい。



11.2 参加者の声

1日目

質問	「開会式・生活オリエンテーション」の感想を記入してください
回答	しっかりメリハリをつけられて、今大会の開会にふさわしいような雰囲気を感じられた。 自県はスカウトの人数が少なく、久々に大人数で集まれて嬉しかった。 施設の方が詳しく説明してくださって良かったです。
質問	「ワークショップ」の感想を記入してください
回答	普段聞けないような話や、これから働く上で必要な考え方を知ることができてとてもためになった。 関口さんの話は大変ためになることが多かったですが、少し私たちにとっては難しい考え方などがあった。
質問	1日目の感想を記入してください
回答	人見知りだから最初は、とても緊張していましたが周囲の人のおかげもあり、楽しく話すことができて良かったです。発言もできたし、他の人の話もしっかり聞いて良かったです。 1日目にしては物凄く疲労が出た。しかしその疲労が出た分、グループのスカウトを初め、いろんなスカウトたちと会話、コミュニケーションを取ること、物事について考えることに頭を使えたんだと思った。

2日目

質問	「県フォーラム代表者発表」の感想を記入してください
回答	ワールドカフェという試みがすごいやりやすかった。自分の地区や県でも実施していきたい。 ほかの県の採択事項を詳しく知ることができ、また、クオリティの高さに感動したから。でも、途中で交代の時に詰まったり、時間に余裕がなかった所が少し満足出来なかった。
質問	「分科会1-3」の感想を記入してください
回答	実行する時に生じる具体的な問題をシュミレーションして考えるのが新鮮だった。 凄く考えることが難しく、最初結構手間取ってしまった。 グループの意見が最後までまとまらず、時間ももっと欲しかった。また、どの意見に対して意見を言ってるのかみんなが混乱してまとまらなかった。
質問	「分科会4」の感想を記入してください
回答	他のグループと混ざったことでお互いの話を深めることができました！ 互いに齟齬が生じた気はするが、最終的に理解し合えた。 最終的にいい案にまとめられたけど、初めはあまり意見を出せなかった。全国から集まったスカウトに圧倒された。

質問	「世界スカウトユースフォーラム」の感想を記入してください
回答	スカウトにこんな世界もあるんだと思い大変参考になった。
	素直に自分も参加したいと思った。言語や境遇の壁を超えてスカウトとしての共通の考えを持っていることに感激した。
質問	「アフターフォーラム」の感想を記入してください
回答	少しアフターフォーラムについて悩んでいたのでお話を聞いて良かった。
	行う内容をまとめて、みんなでの共同の県フォーラムを計画出来てワクワクしている。
質問	「宣言案の案出し・作成」の感想を記入してください
回答	各グループの意見に新たな発見があった一方、共通点も見出せて自分の視野をより広げることができた。
	それぞれのグループで話し合った内容でもどこか共通する点があったり、共通の思いなどがあった。
質問	2日目の感想を記入してください
回答	議論の方法、理解の方法、方針の決め方などたくさんの学びを得られた。自分のこれからの活動に確実に生かしていきたい。
	1日目よりグループの距離感が近くなったこともあり意見をだしやすくなり、自主的に意見を出せました。議論の進め方も少しずつやっていく中で、学び・改善・反省ができたのでより早く身につけることができた。
	1日目と比べ、聞くことも話すこともレベルがとても上がり、正直行き詰まった部分が多かった。

3日目

質問	「全体会」の感想を記入してください
回答	クラスの話し合いとは違い、反対意見や疑問が次々と出たから。こんなに内容の濃い話し合いは初めてだった。
	元々採択文を変えるつもりがないような印象を受けた。
	活発な議論が行われていて充実していた。議長さんの強気な姿勢が様々な議論をよんでいて活発な議論ができたと思う。
	たった1文の採択文ではあったが、討論してる中で少し混乱してしまうことが多くあった。だが、議長団の方たちが細かく分かりやすく説明してくれ、聞いている側も理解できる部分が多くあったと思う。議長団たちに感謝。
質問	3日目の感想を記入してください
回答	昨日の分科会を終え、今日は全体会がメインとなり、全国のスカウト全員で討論をし合うことの難しさをとても感じた。その場(代表者)にいる人だけではなく、全国にいるスカウトのことも考えなくてはいけないという、責任の重さ?というものを感じた。

	半日でしたが、全体会を通して、これまでやってきたことが改めて振り返ることができ、アフターフォーラムでより自信を持って採択文を紹介できるところまで持っていったと思います。
--	--

その他

質問	大会運営について意見があれば記入してください
回答	ファシリテーターの方が当日も事前も優しく対応してくださり、安心して参加することができました。また円滑な運営でとてもよかったです。
	少し時間が詰まりすぎていたと感じた。
質問	大会に参加した目的、また今回の経験をどのように活用したいか教えてください
回答	県のスカウトを代表して他の県の問題を知り、これから自分の県の問題解決に活用していきたい。それぞれの県の問題を聞いたが、自分の県と似ている人がいたりしたのでその人の意見も県に持って帰り、今回決まった採択文を指針とし問題を見つけ解決していきたい。
	目的は、ただ議論の中で、自分を分析したいがためであって、深い意味はなく、今回学んだことをこれからのアフターフォーラムでよりいい意見をだして、レベルの高いものになりたいです。
質問	ファシリテーターについて評価を記入してください
回答	常に議論の目的となるものを共有し続けていただいております、軸をブレさないように方向修正をして頂けたことが私たちにとって大変ありがたかった。
質問	フォーラム全体の感想を記入してください
回答	今回のフォーラムで採択された宣言文は私たちみんなで決めた方針ということなので、代表者としてこの舞台に集まったみんなで全国のスカウト活動の主体になっていけたらいいなと思います。
	スカウト活動の中で目標があったが、その目的がしっかりしていませんでした。しかし、このフォーラムを通して色々な人の話を聞いて、様々な経験を通して目的をもう一度考え直す機会になりました。自分のスカウト活動だけでなくベンチャースカウト活動において大事なことを学ぶことができました。楽しかった、最高の3日間でした。ありがとうございました。
	色々な人と出会うことができ、貴重な経験をさせていただきました。「片手で掴めるチャンスは掴んでほしい」という言葉が今回の活動の自分の原動力になったのかなと思います。初日のこのお話、2日目のスカウトらしい行動をすることというお話、3日目のスカウトであるということに自信を持ったことのお話、どれも覚えています。とてもためになりました。色々なスカウトが集まって、それぞれのスカウティングが聞いて、自分も良い刺激をもらいました。

第24回全国スカウトフォーラム実施報告書

第24回スカウトフォーラム運営委員会

2023 (令和5) 年 3月発行

発行: 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3

TEL: 03-6913-6262

E-mail: program@scout.or.jp

www.scout.or.jp/member/24sf

